

『精選古典探究 古文編』（古探 704）年間学習指導計画作成のための資料

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
4	古文編 第一部	古典を読むということ	1	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章中から、古典を読むことの意義について述べている部分を探し、筆者の考えをまとめる。</li> <li>古典を読むことによって私たちは過去のどのようなことを知ることができるか、またそれがなぜ古典を学ぶ意味になるか、話し合う。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2)ア)</li> <li>先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</li> <li>② 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について進んで理解を深め、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって古典を学ぶ意味について話し合おうとしている。</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
4 ～ 5	一 説話	<p><b>博雅の三位と鬼の笛</b> (十訓抄)</p> <p><b>小野篁、広才のこと</b> (宇治拾遺物語)</p> <p><b>大江山</b> (古今著聞集)</p> <p><b>学びを広げる</b> 和歌にまつわるエピソード</p> <p>●話の展開と登場人物の心情を読み取る ●説話が読み継がれてきた意義について考える</p>	3	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読する。</li> <li>・博雅の三位が笛の名手であったことは、どのようなことからわかるか説明する。</li> <li>・「鬼の笛」だとわかったいきさつを、順を追って整理する。</li> </ul> <p>・小野篁が嵯峨天皇に「え申し候はじ」と言った理由を説明する。</p> <p>・「帝ほほ笑ませ給ひて、事なくてやみにけり」から読み取れる嵯峨天皇の心情を説明する。</p> <p>・定頼中納言が、「丹後へ遣はしける人は参りにたりや」と言った理由を説明する。</p> <p>・「大江山……」の歌について、用いられている修辞を説明する。</p> <p>・「大江山……」の歌について、小式部内侍が定頼中納言に伝えたかったことは何か、話し合う。</p> <p>・『小倉百人一首』に選ばれている和歌のうち、教科書にとりあげられた5首の中から一首を選び、その和歌にまつわるエピソードを調べて発表する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(1)ウ)</li> <li>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2)ア)</li> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2)イ)</li> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。(A ア)</li> <li>②文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。(A イ)</li> <li>③作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(A エ)</li> <li>④関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(A キ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて進んで理解を深め、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉え、学習課題にそって作品のもつ背景について発表しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の作品や文章を読み、その内容や形式などに関して興味をもったことや疑問に感じたことについて、調べて発表したり議論したりする活動。(A ア)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
6	二 随筆(一)	<p><b>徒然草</b> あだし野の露消ゆる時なく</p> <p>悲田院の堯蓮上人は</p> <p>世に従はん人は</p> <p>花は盛りに 【参考】玉勝間 兼好法師が詞のあげつらひ</p> <p><b>方丈記</b> ゆく河の流れ</p> <p>安元の大火</p> <p><b>学びを広げる</b> 随筆と記録——『百練抄』との読み比べ</p> <p>日野山の閑居 古典の扉 隠者の文学</p> <p>●随筆に表現された筆者の考え方を読み取る ●内容や描写に着目し、随筆の特徴を理解する</p>	5	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●筆者の最も良かったことはどのようなことか、説明する。</li> <li>●「吾妻人」「都の人」について、「故郷の人」「堯蓮上人」はそれぞれどのように評価しているか、整理する。</li> <li>●「機嫌を言ふべからず」の理由について説明する。</li> <li>●筆者は「沖の干潟遥かなれども、磯より潮の満つるがごとし」という比喻をとおして、どのようなことをいおうとしているか、話し合う。</li> <li>●筆者は、どのような状態の月・花・恋に魅力を感じているか、説明する。</li> <li>●情趣を味わう態度として、筆者はどのような態度を肯定し、どのような態度を否定しているか、まとめる。</li> <li>●『玉勝間』『兼好法師が詞のあげつらひ』を読む。</li> <li>●「人」と「栖」に対する筆者の考え方をまとめる。</li> <li>●筆者が考える「無常」の例に加えることができる具体的な事例を、身近なところから探す。</li> <li>●『「安元の大火」参考地図』を参考にして、火がどのように燃え広がったか、確認する。</li> <li>●筆者は、火事の中で人々がどのような状態であったと考えているか、まとめる。</li> <li>●「すぐれてあじきなくぞ侍る」に表れている筆者の考えについてどう思うか、話し合う。</li> <li>●『百練抄』を読み、『方丈記』との違いはどのようなところにあるか、『方丈記』に書かれていて『百練抄』に書かれていないことや、随筆と記録がそれぞれ伝えようとしていることの主眼の違いについて留意しながら話し合う。</li> <li>●庵に置いてあるものを参考にして、筆者がどのような生活をしてきたか、説明する。</li> <li>●筆者は四季の風物を何に結びつけて捉えているか、共通点をまとめる。</li> <li>●筆者は、庵での生活のどのような点がよいと考えているか、説明する。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1)イ</li> <li>●先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。(Aイ)</li> <li>②必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ)</li> <li>③作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ)</li> <li>④古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ)</li> <li>⑤古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●古典の作品や文章の種類とその特徴について進んで理解を深め、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価し、学習課題にそって作品の特徴について話し合おうとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。(Aイ)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
7	三 物語(一)	<p><b>竹取物語</b> かぐや姫の昇天</p> <p><b>伊勢物語</b> 初冠</p> <p><b>筒井筒</b></p> <p><b>学びを広げる</b> 古典作品の翻案を読む——高樹のぶ子『小説伊勢物語 業平』より</p> <p><b>月やあらぬ</b></p> <p><b>小野の雪</b> 【参考】つひにゆく道</p> <p><b>大和物語</b> 嫉捨</p> <p>●登場人物の行動と心情を読み取る ●物語中の和歌の役割について理解する ●物語に描かれた人間のありようを考える</p>	5	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かぐや姫が人間世界に送られた事情と、天上世界に戻る理由を、それぞれまとめる。</li> <li>天の羽衣を着ることによって、かぐや姫にどのような変化が起こったか、説明する。</li> <li>天人と人間にはどのような違いがあるか、話し合う。</li> </ul> <p>・男が「心地惑ひにけり」となった理由を説明する。</p> <p>・「春日野の……」の歌は「陸奥の……」の歌をどのように取り入れているか説明する。</p> <p>・男のどのような行動が「いちはやきみやび」であったか話し合う。</p> <p>・「筒井筒……」と「比べ来し……」の歌が相手へのどのような思いを表しているか説明する。</p> <p>・「風吹けば……」の歌が相手へのどのような思いを表しているか説明する。</p> <p>・「大和」の女と「河内」の女の行動や歌を整理し、それに対する男の心情を説明する。</p> <p>・「それぞれが筒井筒の成り行きに、自らの意を申し立てます」について、「業平」「覚行」「元親」それぞれの意見に対して、感じたことや考えたことをまとめて発表する。</p> <p>・「心ざし深かりける人」の行動を整理する。</p> <p>・「去年に似るべくもあらず」と感じた理由を説明する。</p> <p>・「月やあらぬ……」の歌にこめられた心情を説明する。</p> <p>・「枕とて……」の歌で「秋の夜とだに」と詠んだ理由を説明する。</p> <p>・「忘れては……」の歌にこめられた心情を説明する。</p> <p>・「つひにゆく道」を読む。</p> <p>・「男」が「をば」を捨てるまでの経緯を整理する。</p> <p>・「男」が「をば」を捨てたあと、歌を詠んで迎へに行くまでの心情の変化をまとめる。</p> <p>・本文中で月がどのような役割を果たしているか話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(1ウ)</li> <li>先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。(Aア)</li> <li>必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ)</li> <li>古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ)</li> <li>古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ)</li> <li>古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について進んで理解を深め、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉え、学習課題にそって自分の考えをまとめて発表しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。(Aイ)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
9	四 随筆(二)	枕草子 すさまじきもの	3	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一段落に示された物事は、なぜ「すさまじきもの」なのかそれぞれ説明する。</li> <li>・筆者は、第二段落でどのような「文」を「すさまじきもの」だと述べているか、説明する。</li> <li>・第三段落の「除目に司得ぬ人の家」に集まってきた人々の行動と心情の変化について、時間の推移にしたがってまとめる。</li> </ul> <p>・「すさまじきもの」やこれまで学んだ古文教材の中から、古今異義語を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探した古今異義語について、古語辞典や国語辞典を利用して、古語と現代語、それぞれの意味と用例を調べる。</li> <li>・具体的な用例を並べて、古語から現代語への変化がどのように生じたか、その経緯や理由を調べる。</li> <li>・各自が調べたり考えたりしたことをレポートにまとめ、グループ内で互いに発表する。</li> </ul> <p>・本文中の会話はそれぞれ誰の発言か、敬語に注意して整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さては、扇にはあらで、くらげのななり」という発言には、どのようなおもしろさがあるか話し合う。</li> <li>・「笑はせ給ふ」とあるが、誰が、なぜ笑ったのか説明する。</li> <li>・この話から、中宮に仕える女房にはどのような素養が必要とされていたと考えられるか話し合う。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。(1)ア)</li> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2)イ)</li> <li>・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。(2)ウ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ)</li> <li>②古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ)</li> <li>③関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって古典の言葉と現代の言葉の変遷について発表しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の言葉を現代の言葉と比較し、その変遷について社会的背景と関連付けながら古典などを読み、分かったことや考えたことを短い論文などにまとめる活動。(Aカ)</li> </ul>
		学びを広げる 古語と現代語			
		中納言参り給ひて			
		雪のいと高う降りたるを 【参考】香炉峰下、新ト山居…… 文法から解釈へ①歌などにさへ歌へど——助詞「さへ」			
		●随筆に表現された筆者の考え方を読み取る ●用いられた言葉に着目し、内容理解を深める			

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
10 と 11	五 物語(二)	源氏物語 光源氏の誕生	8	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>帝の桐壺更衣への寵愛は、次の人々にどのように受け止められていったか整理する。</li> <li>帝は「玉の男御子」をどのように思っていたか、「一の御子」への思いと比較して説明する。印象に残った歌を選び、そこに描かれた情景や思いを説明する。</li> </ul>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1イ)</li> <li>古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(1ウ)</li> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2ア)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ)</li> <li>② 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ)</li> <li>③ 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について進んで理解を深め、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察し、学習課題にそって物語を読み比べ、気づいたことをまとめようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。(Aイ)</li> </ul>
		藤壺の入内		<ul style="list-style-type: none"> <li>光源氏が藤壺に心をひかれていった理由を説明する。</li> <li>弘徽殿女御は藤壺をどのように思っていたかまとめる。</li> </ul>	
		北山の垣間見		<ul style="list-style-type: none"> <li>少女(若紫)はどのように描かれているか、行動、容姿、境遇などの観点からまとめる。</li> <li>「生ひたむ……」、「初草の……」の歌にはそれぞれどのような心情がこめられているか話し合う。</li> <li>光源氏が少女に心をひかれた理由を説明する。</li> </ul>	
		大鏡 雲林院の菩提講		<ul style="list-style-type: none"> <li>「雲林院の菩提講」の登場人物について整理する。</li> <li>「侍めきたる者」が「いで、いと興あること……信ぜられぬ」と言った理由を説明する。</li> <li>「雲林院の菩提講」の設定にはどのような効果があると考えられるか話し合う。</li> </ul>	
		花山天皇の出家		<ul style="list-style-type: none"> <li>「すかし申し給ひけむ」とあるが、道兼がそのような行動をとった理由を話し合う。</li> <li>兼家が道兼のためにとった行動をまとめ、その理由を話し合う。</li> <li>花山天皇と道兼の会話に注意して、二人がそれぞれどのような人物として描かれているかまとめる。</li> </ul>	
		学びを広げる 『栄花物語』との読み比べ		<ul style="list-style-type: none"> <li>『大鏡』の「花山天皇の出家」と読み比べ、登場人物の言動や、花山天皇出家事件の捉え方の違いについて、気づいたことをまとめる。</li> </ul>	
		弓争ひ		<ul style="list-style-type: none"> <li>道長の言動に、道隆父子はどのように反応したか、場面ごとに整理する。</li> <li>伊周と道長は、それぞれどのような人物として描かれているかまとめる。</li> </ul>	
		三舟の才 古典の扉「声」を聞く——物語の歴史		<ul style="list-style-type: none"> <li>公任が、「かばかりの詩を作りたらましかば、名の上がらむこともまさりなまし」と言った理由を説明する。</li> <li>当時、公任はどのような人物と評価されていたと考えられるか、本文を参考に話し合う。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	
		●物語の設定や、構成、展開を理解する ●登場人物の心情を読み取る ●同じ題材を扱った物語を読み比べ、物語の多様性について考える			

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
12	六 日記	<p><b>更級日記</b> あこがれ</p> <hr/> <p>源氏の五十余巻</p> <hr/> <p><b>建礼門院右京大夫集</b> なべて世のはかなきことを</p> <hr/> <p><b>学びを広げる</b> 古典作品にみる「夢」</p> <p>●日記に表現されたできごとと、作者の心情を読み取る ●日記の特徴について理解する</p>	3	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いかばかりかはあやしかりけむを」には作者のどのような思いがこめられているか話し合う。</li> <li>・作者の物語へのあこがれは、どのように描かれているか、行動とともにまとめる。</li> <li>・作者がどのように物語の世界に引き込まれていったかまとめる。</li> <li>・執筆時点の作者は少女時代の自分をどのようにみているか説明する。</li> <li>・「あやにくに面影は身に添ひ、言の葉ごとに聞く心地して」とはどのような状態を示したものでか説明する。</li> <li>・「なべて世の……」、「悲しとも……」の歌に共通する作者の心情について話し合う。</li> <li>・古典作品の中にみられる「夢」を探し、その特徴や作品における効果などを説明する。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。((1)ア)</li> <li>・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。((1)イ)</li> <li>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。((2)ア)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ)</li> <li>②関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</li> <li>③古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の作品や文章の種類とその特徴について進んで理解を深め、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価し、学習課題にそって古典作品に関連のある題材について調査した結果を説明しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(Aオ)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
1	七 軍 記	<p><b>平家物語</b> 忠度の都落ち</p> <hr/> <p>能登殿の最期</p> <hr/> <p><b>学びを広げる</b> 古典作品の継承と改変 古典の扉 平家の光と影をたどる 文法から解釈へ②落人帰り来たり ——待遇表現の変化</p> <p>●物語の背景を理解し、登場人物の行動と心情を読み取る ●『平家物語』が、時代やジャンルを超えて受容されてきた意義について考える</p>	2	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>忠度が引き返して俊成を訪ねた理由と、それに対する俊成の対応を整理する。</li> <li>「うらめしかりしこともなり」には、誰のどのような思いがこめられているか説明する。</li> <li>教経の戦いぶりを、順を追って整理する。</li> <li>「竜田川の紅葉葉を嵐の吹き散らしたるがごとし。汀に寄する白波も、薄紅にぞなりにける」はどのような状況を表現しているか説明する。</li> <li>知盛が「見るべきほどのことは見つ。今が自害せん」と言った時の心情を話し合う。</li> <li>『平家物語』を題材として作られた作品(謡曲、浄瑠璃、歌舞伎、現代演劇、小説、漫画、映画、ゲームなど)にはどのようなものがあるか調べる。</li> <li>調べた作品の中から一つ選び、『平家物語』を継承したと思われる部分や、新たに創作したり改変したりしたと思われる部分について、それぞれ指摘する。</li> <li>どのような意図で創作や改変が行われたか話し合う。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(1ウ)</li> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2ア)</li> <li>古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2イ)</li> <li>先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ)</li> <li>古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ)</li> <li>関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について進んで理解を深め、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察し、学習課題にそって現代まで受け継がれてきた題材について調査し、話し合おうとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(Aオ)</li> </ul>



月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
1 月 2	八 伝 承 ・ 伝 説	<p><b>古事記</b> 倭建の東征</p> <hr/> <p><b>学びを広げる</b> 『古事記』の登場人物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●それぞれの場面における登場人物の行動と心情を読み取る</li> <li>●人物に関する伝承を調べ、現代とのつながりについて考える</li> </ul>	1	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倭建は、どこでどのような行動をとっているか整理する。</li> <li>・能煩野で歌われた四種の歌謡に表れた心情を説明する。</li> </ul> <p>・『古事記』に登場する人物の中から一人を選び、その人物に関する伝承を調べてレポートにまとめる。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(1)ウ)</li> <li>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2)ア)</li> <li>・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。(2)ウ)</li> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。(Aア)</li> <li>②関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について進んで理解を深め、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題にそって古典作品に関連のある人物に関する伝承を調査した結果をまとめようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(Aオ)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
2 月 3	九 和歌・連歌・俳諧	<p><b>和歌十六首</b></p> <p>【参考】古今和歌集仮名序 やまと歌は 古典の扉 和歌から連歌へ、連歌 から俳諧へ</p> <p><b>水無瀬三吟百韻</b></p> <p><b>俳諧二十句</b></p> <p><b>学びを広げる</b> 〈座の文学〉を楽しもう</p> <p>●声に出して読み、和歌・連歌・ 俳諧のリズムを味わう</p> <p>●和歌・連歌・俳諧に表現され た情景や心情を読み取る</p> <p>●創作活動をとおり、古典の韻 文に対する理解を深める</p>	4	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの歌、句切れやリズムに注意して朗読する。</li> <li>それぞれの歌には、どのような景物や心情が詠まれているか説明する。</li> <li>十六首の中から一首を選び、鑑賞文を書く。</li> <li>『古今和歌集仮名序』『やまと歌は』を読む。</li> </ul> <p>・発句・脇・第三の連続した流れの中に詠まれた二つの短歌の情景を、違いに注目しながら説明する。</p> <p>・脇以降の連続する三句を選び、そこで作られている二首の短歌の情景を説明する。</p> <p>・それぞれの句には、どのような情景や心情が詠まれているか説明する。</p> <p>・芭蕉・蕪村・一茶の句を読み比べて、それぞれの俳人の作風の違いについて話し合う。</p> <p>・三人から五人のグループになり、半歌仙を作る。</p> <p>・できあがった作品を別のグループと交換し、互いに鑑賞する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1)イ)</li> <li>古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。(1)エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <p>①文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。(Aイ)</p> <p>②必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ)</p> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について進んで理解を深め、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価し、学習課題にそって創作活動を行うことで古典の韻文に関する理解を深めようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典を読み、その語彙や表現の技法などを参考にして、和歌や俳諧、漢詩を創作したり、体験したことや感じたことを文語で書いたりする活動。(Aウ)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
4	古文編 第二部	愛づ——虫愛づる姫君	1	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は姫君のどのようなところに驚いているか説明する。</li> <li>・これまでに読んだ古典作品から、現代にも通じる人間の姿や現代とは異なる人間の姿を読み取った経験について話し合う。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2)ア)</li> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</li> <li>② 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について進んで理解を深め、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって古典を学ぶ意味について話し合おうとしている。</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
4 ～ 5	一 随筆	枕草子 木の花は	4	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文中で「木の花」は、どのような順序で並べてあるか説明する。</li> <li>「紅梅」「桜」「藤」「棟」について、筆者はどのようなところに魅力を感じているか、それぞれ整理する。</li> <li>「橘」「梨」「桐」について、筆者が評価している点、評価していない点をそれぞれまとめる。</li> </ul> <p>宮に初めて参りたるころ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「なかなか昼よりも頭証に見えてまばゆけれど」とはどのようなことを述べているか説明する。</li> <li>筆者の目に映った中宮はどのように描かれているかまとめる。</li> <li>出仕したばかりの筆者に対して、中宮はどのような心づかいをしているか整理する。</li> </ul> <p>二月つごもりごろに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「御前に御覧せさせむ」、「わななくわななく書き取らせて」における筆者の心情を説明する。</li> <li>「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているか説明する。</li> </ul> <p>大納言殿参り給ひて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「また人のあらばこそは紛れも臥さめ」には筆者のどのような思いがこめられているか説明する。</li> <li>筆者が大納言殿の言動を「めでたけれ」、「いみじうめでたし」と称賛した理由を説明する。</li> </ul> <p>学びを広げる 随筆を書く 春を告げる香り 文法から解釈へ③いかに思ふらむとわびし——助動詞「らむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●当時の宮中の様子や筆者の立場を理解する</li> <li>●随筆に表現された筆者の価値観や心情を読み取る</li> <li>●創作活動をとおり、随筆の特徴を理解する</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1イ)</li> <li>古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2イ)</li> <li>先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2エ)</li> </ul> <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ)</li> <li>②作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ)</li> <li>③古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ)</li> <li>④古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ)</li> </ol> <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて進んで理解を深め、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価し、学習課題にそって創作活動を行うことで随筆の特徴について理解を深めようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典を読み、その語彙や表現の技法などを参考にして、和歌や俳諧、漢詩を創作したり、体験したことや感じたことを文語で書いたりする活動。(Aウ)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
6 7	二 物語(一)	<p><b>大鏡</b> 道真と時平</p> <p><b>学びを広げる</b> 日本三大怨霊</p> <p><b>最後の除目</b></p> <p><b>肝試し</b></p> <p><b>道長と詮子</b></p> <p>●物語に描かれたできごとの背景を理解し、登場人物の行動と心情を読み取る</p> <p>●歴史上のできごとが物語となった例について調べ、物語の意義について考える</p>	5	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道真が時平に妬まれた原因と、「よからぬこと」が起こった原因について、語り手はどのような見方をしているか、それぞれ説明する。</li> <li>「東風吹かば……」、「流れゆく……」の和歌にこめられた道真の心情を説明する。</li> <li>「都府楼……」、「去年今夜……」の漢詩にこめられた道真の心情を説明する。</li> <li>道真が死後に現人神としてまつられた理由を話し合う。</li> </ul> <p>菅原道真、平将門、崇徳院の中から一人を選び、その経歴やまつわるできごと、さらには怨霊化した彼らを取り扱った作品について調べて発表する。</p> <p>お互いの発表を聞いて、これらの人物の事跡が現在まで伝えられている理由について話し合う。</p> <p>兼家に対する兼通の心情の変化を、順を追って整理する。</p> <p>御前に候ふ人々、帝・大将、語り手は、兼通の言動をどのように感じたか説明する。</p> <p>花山院の言動を順を追って整理し、どのような人物として描かれているか話し合う。</p> <p>道長はどのような人物として描かれているか、道隆・道兼と対比してまとめる。</p> <p>一条天皇が、道長を関白にとの主張を受け入れなかった理由を説明する。</p> <p>詮子は道長のためにどのような行動をとったか、またそれはどのような心情からかまとめる。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1イ)</li> <li>古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(1ウ)</li> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2ア)</li> <li>先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。(Aア)</li> <li>作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ)</li> <li>関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章の種類とその特徴について進んで理解を深め、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察し、学習課題にそって歴史上のできごとが作品化された例とそれが現在まで伝えられてきた理由について話し合おうとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章を読み、その内容や形式などに関して興味をもったことや疑問に感じたことについて、調べて発表したり議論したりする活動。(Aア)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
9	三 日記	蜻蛉日記 うつろひたる菊	5	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作者の身に起こったできごとを、時間を追って整理する。</li> <li>「なげきつつ……菊にさしたり」から読み取れる作者の心情を説明する。</li> <li>「返り言」にこめられた兼家の心情を説明する。</li> </ul> <p>・「うつろひたる菊」と読み比べて、内容の違いを指摘する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道綱が、飼っている鷹を放った理由を説明する。</li> <li>「あらそへば……」の歌にこめられた作者の心情について話し合う。</li> </ul> <p>・「橘の花」は、どのような役割を果たしているかまとめる。</p> <p>・「同じ枝に……」の歌は「薫る香に……」の歌をどのようにふまえて詠まれているか、比喩のはたらきにふれながら説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋を迎えた「土御門殿」の様子はどのように描かれているかまとめる。</li> <li>「かつはあやし」の「あやし」とはどのようなことか説明する。</li> </ul> <p>・和泉式部は歌人としてどのような点が評価され、どのような点が批判されているかまとめる。</p> <p>・清少納言はどのような点が批判されているかまとめる。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1)イ)</li> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2)ア)</li> <li>古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2)イ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ)</li> <li>作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ)</li> <li>古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章の種類とその特徴について進んで理解を深め、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって同じ題材を取り上げた複数の古典の文章を読み比べ、内容の違いを指摘しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。(Aイ)</li> </ul>
		<p><b>学びを広げる</b> 広がる逸話——『拾遺和歌集』『大鏡』</p>			
		<p>鷹を放つ</p>			
		<p><b>和泉式部日記</b> 夢よりもはかなき世の中を</p>			
		<p><b>紫式部日記</b> 秋のけはひ</p>			
		<p>和泉式部と清少納言 古典の扉 平安時代の文学——女性と仮名 文法から解釈へ④見てけりとだに知られむ——助詞「だに」</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●日記に表現されたできごと、作者の心情を読み取る</li> <li>●それぞれの作品の特徴を理解し、日記の多様なありようについて考える</li> </ul>			

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
10	四 評論(一)	<p>俊頼髓脳 沓冠折句の歌</p> <p>無名抄 深草の里</p> <p>毎月抄 心と詞</p> <p>正徹物語 一字の違い</p> <p>去来抄 行く春を 岩鼻や</p> <p>学びを広げる 想像の世界を詠む</p> <p>● 評論に表現された筆者の考え方を読み取る</p> <p>● 筆者の主張を参考にして、言語表現について考える</p>	5	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>帝は広幡の御息所をどのように評価しているか説明する。</li> <li>「逢坂も……」、「小野の萩……」の二首に即して、沓冠折句の技法を説明する。</li> <li>俊恵は「夕されば……」の歌をどのように評価しているか説明する。</li> <li>俊恵はどのような点から「み吉野の……」の歌を「かのたぐひ」としたのか話し合う。</li> <li>筆者は「古の歌」と「近代の歌」について、どのような考えをもっているか説明する。</li> <li>「ある人」と筆者の考えの相違点を整理する。</li> <li>筆者は歌を詠む上で、心と詞の関係はどうあるべきだと述べているかまとめる。</li> <li>「独り雨聞く秋の夜すがら」を「独り雨聞く秋の夜半かな」と変えた場合の差異を説明する。</li> <li>「聞<sub>レ</sub>雨」を「雨と聞く」「雨を聞く」と訓読した場合の差異をまとめる。</li> <li>「行く春を……」の句に対する尚白の批判と、それに対する去来の反論、芭蕉の考えをそれぞれ整理する。</li> <li>「岩鼻や……」の句について、筆者である去来は自分の意図よりも先師(芭蕉)の解釈を評価している理由を話し合う。</li> <li>歳時記から季語を選び、それを題として想像によって句を作る。</li> <li>グループに分かれて発表し、句を作る際に気づいたおもしろさや難しさについて話し合う。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。(1)ア)</li> <li>古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1)イ)</li> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2)ア)</li> <li>古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2)イ)</li> <li>先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ)</li> <li>古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ)</li> <li>古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について進んで理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって創作を行い、気がついたことについて話し合おうとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典を読み、その語彙や表現の技法などを参考にして、和歌や俳諧、漢詩を創作したり、体験したことや感じたことを文語で書いたりする活動。(Aウ)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
11 月	五 物語(二)	源氏物語 物の怪の出現	7	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>六条御息所は自分の中にどのような変化を感じて悩んでいるかまとめる。</li> <li>「大将に聞こゆべきことあり」とは、誰がどのようなことを伝えたかったか話し合う。</li> <li>「葵上」がどのような作品か調べ、『源氏物語』との共通点や相違点を整理する。</li> <li>「恋ひわびて……」、「見るほどぞ……」、「憂しとのみ……」の歌にこめられた光源氏の心情をまとめる。</li> <li>光源氏と従者が詠み交わした四首の和歌の中における「雁」のイメージを説明する。</li> <li>白居易や菅原道真の漢詩の引用は、物語にどのような効果を与えているか話し合う。</li> <li>明石の姫君の様子がどのように描かれているかまとめる。</li> <li>明石の姫君の引き渡しに際し、明石の君と光源氏はそれぞれどのような思いを抱いているか説明する。</li> <li>冬の情景がこの場面に与えている効果を話し合う。</li> <li>女三の宮の降嫁の後、光源氏が女三の宮、紫の上に対して抱いている思いをまとめる。</li> <li>女三の宮の降嫁によって、紫の上が光源氏との関係をどのように捉え直しているか、「目に近く……」の和歌をふまえて説明する。</li> <li>死期の近いことを悟った紫の上は、付き添う光源氏と明石の中宮にどのような思いを抱き、どのように接しているかまとめる。</li> <li>光源氏・紫の上・明石の中宮が和歌に詠みこんだ思いを説明する。</li> <li>浮舟のもとに來訪し、「川よりをちなる人の家」に到着するまでの匂宮の行動を、順を追ってまとめる。</li> <li>匂宮の突然の來訪を、右近はどのように受け止め、どのように行動しているかまとめる。</li> <li>「年経とも……」、「橋の……」の歌にこめられた匂宮と浮舟の心情について話し合う。</li> <li>『源氏物語玉の小櫛』『もののあはれ』を読む。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。((1)エ)</li> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。((2)ア)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。(Aア)</li> <li>②必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ)</li> <li>③関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</li> <li>④古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について進んで理解を深め、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価し、学習課題にそって古典の文章を芸術化した作品について調査した結果を論述しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。(Aイ)</li> </ul>
12		学びを広げる 能「葵上」			
		心づくしの秋風			
		明石の君の苦惱			
		女三の宮の降嫁			
		萩の上露			
		浮舟と匂宮 【参考】源氏物語玉の小櫛 もののあはれ			
		古典の扉 広がる源氏物語の世界			
		●物語の設定を理解し、構成や展開を読み取る			
		●和歌の解釈や漢詩の引用についての考察をとおして、登場人物の心情を的確に読み取る			
	●物語を題材とした芸能について調べ、日本の言語文化の広がりについて考える				



月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
1	六評論(二)	<p>無名草子 文</p> <p>風姿花伝 下手は上手の手本</p> <p>学びを広げる 世阿弥の言葉</p> <p>難波土産 虚実皮膜の間</p> <p>玉勝間 師の説になづまざること 古典の扉 国学の隆盛</p> <p>● 評論に表現された筆者の考え方を読み取る ● 筆者の主張が現代においてもつ意義について考える</p>	4	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文」の「めでたき」点はどのようなところにありとされているか説明する。</li> <li>・「文字」のはたらきはどのように述べられているか説明する。</li> <li>・手紙のもつ意義について話し合う。</li> </ul> <p>・筆者は「上手」「下手」に対して、どうあるべきだと述べているか</p> <p>・「稽古は強かれ、情識はなかれ」について思ったことを話し合う。</p> <p>・『風姿花伝』において、「初心忘るべからず」「離見の見」「秘すれば花」という言葉がどのように使われているか調べる。</p> <p>・「女形の口上」と「歌舞伎の役者」における「実」と「虚」が指すことを説明する。</p> <p>・近松が浄瑠璃や歌舞伎の芸はどうあるべきだと述べているかまとめる。</p> <p>・「実と虚との皮膜の間にあるもの」について、現代社会の中から例を探して説明する。</p> <p>・「わが心の師」とはどのようなものか説明する。</p> <p>・筆者が「師の説」であっても批判するのは、学問をどのようなものだと考えているからか話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。(1)ア)</li> <li>・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。(2)ウ)</li> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(A オ)</li> <li>② 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(A カ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について進んで理解を深め、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって古典に用いられている言葉について調査しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・往来物や漢文の名句・名言などを読み、社会生活に役立つ知識の文例を集め、それらの現代における意義や価値などについて随筆などにまとめる活動。(A キ)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
2	七 近世の文学	<p>西鶴諸国ばなし 大晦日は合はぬ算用</p> <p>学びを広げる 読み比べ——太宰治「貧の意地」</p> <p>曾根崎心中 道行</p> <p>南総里見八犬伝 芳流閣の決闘</p> <p>東海道中膝栗毛 【参考】近世の多様な文学 桃太郎昔語／刻白爾天文図解／塵劫記 古典の扉 オンライン「図夢歌舞伎」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作品の展開と登場人物の心情を読み取る</li> <li>● 文体や表現について、それぞれの作品の特徴を理解する</li> <li>● 古典作品の現代における意義や価値について考える</li> </ul>	3	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原田内助は、日頃どのような生活を送っている人物として設定されているかまとめる。</li> <li>・原田内助が客たちに見せた十両をめぐる、どのように話が展開しているか整理する。</li> <li>・この話を読んで「武士のつき合ひ」についてどのように感じたか話し合う。</li> </ul> <p>・音読し、「大晦日は合はぬ算用」の冒頭部分と比べて、感じたことや気づいたことを話し合う。</p> <p>・『新釈諸国噺』から作品を選び、もとになった作品と読み比べて共通点と相違点をまとめ、発表する。</p> <p>・徳兵衛とお初はどのような状況にあり、何を望んでいるか説明する。</p> <p>・人形浄瑠璃文楽の歴史・舞台・太夫と三味線・人形と人形遣いについて調べる。</p> <p>・八犬士の名前やそれぞれの特徴を調べる</p> <p>・芥川龍之介『戯作三昧』などを参考にして、曲亭馬琴について調べる。</p> <p>・東海道の宿場から一カ所を選び、歌川広重の浮世絵「東海道五拾三次」などを参考にして宿場や周辺について調べ、宣伝用パンフレットを作る。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。((1)エ)</li> <li>・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。((2)ウ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。(Aイ)</li> <li>② 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ)</li> <li>③ 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について進んで理解を深め、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって古典作品をもとにした近代の作品を読み、共通点や相違点について発表しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。(Aイ)</li> </ul>

月	単元	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
3		近松浄瑠璃	1	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>・これまで古文を学んできた中で、魅力を感じたり疑問をもったりした経験について発表する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <p>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2)ア)</p> <p>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ)</p> <p><b>思・判・表</b></p> <p>① 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(A オ)</p> <p>② 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(A ク)</p> <p><b>主</b></p> <p>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について進んで理解を深め、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして古典を学習してきた成果について発表しようとしている。</p>